



学長メッセージ

# 新入生の皆さんへ

獨協大学学長  
山路朝彦

(やまじ・あさひこ)



1953年生まれ。81年東京外国語大学大学院外国語学専攻修士課程ドイツ語専攻ドイツ語専任講師、90年外国語学部助教授、01年外国語学部教授。本学における役職歴は、94～96年外国語学部教務主任、97～01年学長室委員、03～07年学生部長兼敬和館長、08～12年教務部長、12年～19年副学長兼総合企画部長および獨協学園理事。20年4月1日より学長に就任。

難関を超えて入学した  
皆さんを心から歓迎します

今年度の新入生の皆さんは大変な苦労をなさったことと思います。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、高校が一斉休校となり、年度末に予定されていた様々な学校の行事が唐突に中止になりました。先生方、クラスの友達との突然の別れが訪れ、卒業式も行われないうちに高校を巣立たざるを得なかった方もいるでしょう。

それ以前に、皆さんはここ数年続いている私立大学の合格者絞り込みの状況の中で、志望校を選ぶのにも苦労されました。直接は関係しないにしても、来年から、これまでの大学入試センター試験が大学入学共通テストと名前を変え、内容も記述式問題の導入が計画され、一昨年度はプレテスト(試行試験)まで行われました。また英語では英検やTOEFLなどの民間テストが活用されると言われ、各大学は具体的な利用方式まで発表していました。いずれも見送られたわけですが、こうした大学入試改革の混乱、錯綜する情報に不安を抱かざるを得なかった

ことでしょうか。さらに、入試シーズンになって急に新型コロナウイルスの感染拡大が追い討ちをかけ、受験に大きなハードルが課されてしまいました。

私たち獨協大学の教職員はそれらの状況をよく承知しており、難関を超えて入学してきた皆さんに心から敬意を表し、歓迎いたします。本学では入学式も中止をせざるを得ませんでしたが、皆さんのより良い学びのために今後は全力でサポートして参ります。獨協大学は教育力で定評のある大学です。これらの4年間、たとえ社会でどのような変化が起ころうとも、安心した学びの場を提供し続けます。

建学の理念  
「大学は学問を通じての  
人間形成の場である」

本学は、昨年で55周年を迎えましたが、建学時に掲げた理念を長い歴史の中で変わることなく堅持し続けてきました。大学の理念というのは、それぞれの大学が掲げる教育の目的であり、特に私立大学では常にそこへと





立ち戻り、自らの教育研究がそれに叶うもの  
 になっているか問い続ける大きな「柱」のこと  
 です。

獨協大学の理念は「大学は学問を通じての  
 人間形成の場である」という創立者天野貞祐  
 先生の言葉です。私自身、本学に就職が決  
 まった時、この言葉を聞いて大変素晴らしい  
 ものだと思いました。この理念の背景にドイ  
 ツで育まれた思想があり、明治時代にドイツ  
 の進んだ学問を学ぼうとした獨逸<sup>ドイツ</sup>学協会学  
 校の伝統を引く大学であることも瞬時に分  
 かるものだと感じたからです。ドイツの  
 文学の中に「教養小説」と呼ばれるジャンル  
 があります。少年や青年が、住み慣れた故郷  
 を離れ、旅に出て様々な経験を学ぼうとす  
 る。徐々に成長し、自己形成していくというス  
 トリーです。人が経験、学びを通して、自分  
 の中に可能性としてあったものを見出し、成  
 長させ、自己を形成していくという考え方は  
 ドイツ理想主義以来の伝統的な考え方は  
 天野先生は、かつての入学式の式辞で、皆  
 さんを次のような人間に育てたいと述べら  
 れています。「良き意思」を持った人間、「思  
 慮」を持つ人間、「豊かな情操」を持った人間、  
 社会に役立つ「知識技能」を持った人間、そ  
 して「健康」な人間です。50年以上も前の式  
 辞ですが、この理想は今も変わりがありませ  
 ん。現在のように混沌とした状況の中にあ  
 り、社会をさらに混乱させようという悪意  
 ある情報すら飛び交う中において、「良き意  
 思」を持ち続けて行動でき、現実にも目の前  
 にいる弱い立場の人たちへの深い思慮を持って  
 行動することができる人間であり続けてく  
 ださい。そして、本学で知識技能を身につ  
 けて、それを社会で活かすことのできる独立

した人格を形成し、また、美しいものを愛で  
 る豊かな情操を育んでください。何よりも、  
 皆さんが身体的にも精神的にも、健康に4  
 年間を過ごすことができるように支えて参  
 ります。

学生と教職員が  
 共に学ぶ4年間

獨協大学は教育力に定評があると書きま  
 したが、学生の皆さんと教員・職員の間がと  
 ても近い大学でもあります。皆さんにはクラ  
 スアドバイザーの先生がついて学修と共に  
 学生生活の相談に乗ってくれます。教務課や  
 学生課などの窓口では、これから大学でど  
 のように学んでいけばいいのかについての履修  
 相談や、奨学金のガイダンスを実施していま  
 す。図書館でのレファレンスカウンター、国際  
 交流センターでの留学ガイダンス、その他、  
 自ら学ぼうとする皆さんを支える支援体制  
 は枚挙にいとまがありません。いずれの窓口  
 でも親身な対応がなされることが本学の  
 大きな自慢です。

最後に、皆さんはこれまで不安な数ヶ月を  
 過ごしてきましたが、それ以上に心配な日々  
 を送られたのは皆さんを見守ってこられた保  
 護者の方々です。入試の動向と一緒に  
 目を配り、特に皆さんの健康には特段の注意  
 を払ってくださいました。なかなかうまくは  
 伝えられないかも知れませんが、入学を祝っ  
 ていただく機会などがありましたら、それに  
 報いる言葉を伝えてあげてください。  
 それでは、これから4年間、一緒に学んで  
 参りましょう。